

呼和浩特市の派遣感想文

光ヶ丘女子高等学校2年 板倉由奈

青い城の名をもつ呼和浩特市。呼和浩特市で過ごした5泊6日の中、私はコミュニケーションの大切さと岡崎市の良さを改めて知りました。

呼和浩特市との交流に参加した学生は、母国語が異なるので、世界共通語である英語を用いて会話をするしかありませんでした。自分より年下の外国の生徒と英語で話すのはとても難しく、思ったことをうまく伝えることができず、何度も何度も苦労しました。最初の方は、会話することも難しく相手が答えられる簡単な質問だけを尋ねていた私でしたが、途中で気づいたことがあります。それは、話したいという気持ちがあれば、ジェスチャーをしたり、ゲームをしたりするだけでも自然とコミュニケーションはとれるということです。無理に会話をつなげようとする必要はない。一緒にある時間を楽しもうとすれば、相手もそれに必ず応えてくれると知りました。大雨の中たくさん喋ったことや、トランプでゲームをしたこと、一緒にダンスをしたことなど、どれも本当に楽しかったです。



他国の学生との食事

また、他国の学生とお互いの国について話す中で、自分が恵まれていること、自分の住む岡崎市の魅力に改めて気づきました。住みやすく暖かい、伝統あふれるこの岡崎市の良さをもっとたくさんの市民に知ってもらいたいです。しかし、新たな課題があることにも気づかされました。それは国際化への対応です。今、岡崎市に住んでいる外国人の割合は、昔と比べてかなり増えており、街中でもよく外国の方を見かけます。岡崎市民だけではなく外国人の方も住みやすく安心できる場所。そんな岡崎市になってほしいです。



草原体験（むかで競争）

今回、この呼和浩特市高校生派遣に参加して学んだことはとても多く、私自身を成長させる良いきっかけにもなったと思います。この経験から学んだことを生かして、魅力的な町づくりに携われる人間になれるよう、これからもいろいろな事に挑戦していきたいです



参加者の人たちと